



最終更新月：2021年7月

FSC：持続可能な開発目標を達成するためのツール

2015年9月に国連総会で持続可能な開発のための2030アジェンダが採択されました。このアジェンダは「人間、地球及び繁栄のための行動計画」であり、「より大きな自由における普遍的な平和の強化を追求するもの」です。これはあらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つことを優先事項として掲げており、これが持続可能な開発にとって不可欠な要件であると見なしています。

国連環境計画（UNEP）の前事務局長であったアヒム・シュタイナー氏はその重要性を以下のように説明しています。「2030アジェンダは、世界の今日の経済成長モデルに置き換わる、新たな持続可能かつ公平を達成することを目指した経済および社会というパラダイムシフトを示しており、意思決定においてこれまでになく多くの人々の参加を補償しています…これは、持続可能ではない生産と消費のパターンの根本的原因に対処し、誰もが恩恵を受けられる持続可能なライフスタイルと暮らしに変えていくことを目指したアジェンダです。環境へ十分に配慮することは、持続可能性と人類の生存にとってとても重要なことです。」

政府や国際機関には、2030アジェンダの実施を主導する役割が期待されています。しかしそれだけではなく、このアジェンダの達成のためには社会のすべての当事者が関与することが必要であり、期待されています。国連加盟国にはアジェンダの対象をシンプルに表現をしたPがあります。これまの人間（People）、地球（Planet）、繁栄（Prosperity）と平和（Peace）だけでなく、5つ目のPであるパートナーシップ（Partnership）が重要な役割を果たします。

2030アジェンダの中核をなすのが持続可能な開発目標（SDGs）です。17の目標と169項目のターゲット（達成規準）が定められており、経済、社会、環境という持続可能な開発の3分野をカバーしています。この中で生活の質、すべての人への平和と公正、そして持続可能な生産と消費や天然資源の利用に重きが置かれています。

森林破壊と森林劣化を止め、持続可能な森林管理を実施することは、気候変動とその悪影響を軽減し、生物多様性を保全し、きれいな水を提供し、エコロジカル・フットプリントの低い経済のために原材料を提供し、何億人もの人々の生活を守るためにとても重要です。SDGsは、世界の森林破壊と森林劣化を止めるため、持続可能な開発の未来のために森林が果たす役割を強化する大きな力となり得ます。

そのため、FSCは積極的にSDGsの策定をサポートしており、それぞれの当事者が自身の活動に注力できるような指標作りを手伝っています。

FSCは環境、社会、経済分野の利害関係者が一緒に作るパートナーシップ組織です（ボックス1参照）。FSC認証は持続可能な森林管理を世界に広げるための制度として主導的な役割を果たしており、CoC認証およびラベリングの仕組みを通じて消費活動の変革を起こすことに重きを置いている制度です。自主的な認証制度であり、市場のニーズに応じて始まったFSC認証ですが、現在では多くの公的機関が自身の持続可能な開発アジェンダにおいてFSC認証を指標として活用しています。

FSC認証は、非常に多岐にわたりSDGsの達成に貢献できる重要なツールです。最も直接的な貢献はターゲット15.2（後により詳細な説明あり）ですが、私たちの働き方、FSC認証林で実施されている活動や、それらと与える林産物マーケットへの影響によって、FSCはSDGsの多くを達成するためのツールとなっています。以下にFSCがどのようにSDGsの14の目標と40のターゲットに貢献をするのか示しておりますので、是非それぞれの活動にお役立てください。

ボックス1. FSC：持続可能な開発を達成するための堅固な制度

FSCは、環境保全の点から見ても適切で、社会的な利益にかなない、経済的にも継続可能な森林管理を世界に広めるための独立した、非政府会員組織です。FSCは1990年に概念が生まれ、1994年に適切な管理がされた森林からの製品を消費者や企業に届けるために正式に発足しました。国際的な組織であり、1,000を超える会員（法人、個人）に支えられ、54の国にナショナルオフィスがあり、8つの地域オフィスを持ちます。

FSCは、合法性、環境、社会、経済そしてモニタリング要求事項を含む森林管理のための規格を定めています。これらの要求事項を満たす森林管理者は認証を受けることができ、自身の広報活動や取引において認証されているという事実を活用できます。認証の発行及び定期的なパフォーマンス評価は独立した認証機関によって行われており、また認証機関はASI（Assurance Services International）という特別な機関によって監督されています。

FSC認証林から伐採された木材が最終的にFSCラベルの付いた製品に確実に使用されることを補償するために、FSCはサプライチェーンに関わる企業のための規格と手順を策定しました。製品にFSCラベルを付けるためには、サプライチェーンに関わる全ての企業がFSC認証を取得している必要があります。一方、FSCではリサイクル資源の活用が環境面から好ましいことも認識しており、リサイクル資源を活用する企業のための特別な規格も策定しました。

2015年には、FSCの原則と基準を実施するための補足文書として国際標準指標が作成されました。これは各国のFSC国内規格策定の際のガイダンスとなるもので、これを開始点として、2016年から各国で国際標準指標に基づくFSC国内規格の策定が始まりました。

FSCのガバナンスは環境、社会、経済分野の3つの分会によるモデルであり、各分会のバランスを取り、様々な利害関係者の合意による意思決定を行います。国内規格策定においても同じガバナンスモデルが適用されています。

2019年5月には、世界のFSC認証林面積が84か国に渡り2億ヘクタールを超えました（世界の生産林の16%）。1,600を超える森林管理組織が認証を取得しており、また123か国に渡り、37,000を超えるCoC認証取得者がいます。

目標15. 陸の豊かさも守ろう

2030アジェンダでは、世界中の政府が社会経済的な発展は地球の天然資源の持続可能な管理によってのみ可能であることを認識しています。これを達成するために目標15は、森林、湿地、乾燥地や山地を含む陸域生態系の保全、復元及び持続可能な利用に焦点を当てています。

この目標の下でFSCが最も直接的に貢献をするのは、ターゲット15.2「2020年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる」です。2017年以降、ターゲット15.2のグローバル指標「持続可能な森林経営における進捗」には、国際連合食糧農業機関（FAO）による認証林面積の報告が含まれています。

FSCは、世界の持続可能な森林管理を推進するために設立され、現在では世界で2億ヘクタールを超える森林が認証されており、認証材は商業的な丸太生産の6分の1を占めています。FSCの規格は利害バランスを考慮した多くの利害関係者による意思決定プロセスを経て作られています。これには、例えばWWFやグリーンピースのような環境団体、労働者組合、先住民族団体や研究者、林業者、林材業企業などが含まれます。

FSCの森林管理規格は、森林管理者が森林破壊、森林劣化につながる活動を行うことを防ぎ、生物多様性や生態系サービスを維持するための厳しい要求事項を有しています。この厳しい要求事項を満たした森林管理者だけがFSC認証を受けることができ、認証を維持するためには要求事項に適合し続ける必要があります。

FSCの原則を森林復元や植林プロジェクトに適用することで、多面的機能を十分に発揮する森林の造成が可能となります。また認証はこのようなプロジェクトに経済的な可能性をもたらします。FSCのような森林認証制度は、ターゲット15.2のグローバル指標にとって有効であり、世界中で透明性をもって検証できる指標となっています。

FSCの役割は、ターゲット15.2を超えて目標15全般に渡って発揮されます。例えば、FSC認証は森林生態系の保全と復元に大きな役割を果たします（ターゲット15.1）。グアテマラのMaya Biosphere Reserveでの調査(Hodgdon et al., 2015)では、FSC認証地域が、同自然公園内の法的な保護区よりも森林生態系の保全と復元に関してよいパフォーマンスを示していました。

FSC認証や、その原則と基準に基づく考え方は、劣化した土地と土壌の回復（ターゲット15.3）、山地生態系の保全（ターゲット15.4）と自然生息地の保護（ターゲット15.5）にも利用できます。FSC認証林の管理者は、保護対象動植物の密猟や違法取引を防がなければなりません（ターゲット15.7）。また外来種の使用も制限されています（ターゲット15.8）。またFSC認証は、森林管理区画内の活動のみに焦点を当てるのではなく、認証林に隣接するコミュニティや影響を受けるコミュニティへよりよい生活のための機会を提供することで、地域の森林の劣化を防ぐ効果もあります（ターゲット15.C）。

目標 1. 貧困をなくそう

貧困根絶に対するFSCの貢献は、地味ではありますが確実に関係しています。世界には小規模森林所有者やコミュニティフォレストがFSC認証を通じて追加的な収入や安全を得ている事例があります。FSC要求事項の中に直接的に含まれる貧困根絶に貢献する指標もあれば、その他にも、マーケットにおける付加価値を通じたものもあります。

人々が認証林の中で生活をしている場合、認証取得組織が果たす貧困根絶に対する役割は大きくなります。FSC要求事項には、労働者に対して妥当な生活賃金を支払う、必要な教育訓練を提供する、安全を保障するなどの項目が含まれます。また地域社会の社会経済的な発展に貢献する活動が求められます。このような活動の一環として、地域に学校や病院を作り、運営している事例もあり、これらを通じて地域社会が貧困から抜け出すために必要な教養と健康を提供しています。

また、より具体的にFSCはターゲット1.5「2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靭性（レジリエンス）を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する」に貢献しています。FSC認証は、森林の強靭性を維持・向上させ、認証林から安定したきれいな水が供給されることを保証します。これは世界中で生活の一部を森林に依存する20億人もの人々にとって重要です。

目標 2. 飢餓をゼロに

森林が生物多様性の保全や気候変動の影響を緩和する上で非常に重要であることはよく知られています。しかし、飢餓を減らし、人々の健康状態をよりよくするために森林が果たしている役割はあまり注目されていません。目標2は、農業に焦点を当てていますが、FSCは特にターゲット2.4の持続可能な食糧生産システムと強靱な農業実践において貢献できます。

世界中で8億2千100万人もの人が栄養不良状態にあると言われています（国連事務局 2019年）。栄養不良は地球上のほぼすべての国において他人ごとではありません。2050年には地球の人口が90億人を超えると予想されている中、食料と栄養を確保することは大変な課題であり、学術分野や政治の分野での議論の多くを占めています。生産性の大幅な向上にも関わらず、従来通りの農業戦略では、増え続ける地球の人口を支えられないであろう根拠が多く示されています。

森林は、農業を補完する形で目標2に貢献できます。例えば、森林や樹木を管理することで、木の実、果実、ジビエなどの食料を提供したり、農業による収穫量が減る時期や気候の影響から農業生産量が落ち込む時期に、森林からの食料提供を最大化することが可能です（Vira et al., 2015）。

目標 3. すべての人に健康と福祉を

適切に管理された森林は、公害による影響を軽減し、森林の持つ公益的機能の発揮を保証し、人々の健康にとって大切な資源を守ります。FSC認証林では、労働者の安全と健康を守るための活動が行われています。これには、FSC農業指針による危険な農薬の使用制限も含まれます（FSC, 2019a）。FSC認証取得者は、労働者に対して必要な教育訓練を提供し、労働安全衛生について管理をする義務を負っています。また労働災害や疾患について、公正な補償を行う仕組みを持つ必要もあります。

コンゴ盆地でFSCコンセッション（伐採権所有地）と隣接コンセッションを比較した調査（Cerutti et al., 2014）では、認証林と非認証林で防護具の装着状況（それぞれ100%と75%）、防護具の正しい使用方法の理解（90%と25%）、労働者の健康保健（100%と25%）というように、著しい差がありました。加えて、FSCの原則4「組織は、地域社会の社会的、経済的な満足感を高めるか少なくとも維持できるように貢献しなければならない」の下で、FSCコンセッション内に住む人には、健康と教育のための施設が提供されています。認証林と非認証林で飲料水の利用可能性（それぞれ86%と67%）、住宅のシャワーとトイレ設備（100%と46%）、地元の診療施設（100%と38%）というように、こちらも明確な差がありました。

このようにFSCは、SDGsターゲットの特に3.3（伝染病、感染症への対処）、3.8（保健サービスへのアクセス）および3.9（有害化学物質の影響軽減）に貢献します。

目標 4. 質の高い教育をみんなに

FSCの森林管理の要求事項は、主に原則4を通じて、特に森林内に住んでいる教育の機会が乏しいコミュニティの子どもたちや大人にとっても教育の機会を増加させます。上記のコンゴ盆地の調査（Cerutti et al., 2014）では、公的なサービスによる教育の他に得られている追加の教育の機会が認証林内では78%であったのに対して非認証林では33%でした。

このように、FSCはSDGsのターゲット4.1に貢献します。

また、林業労働者に対する教育訓練の機会の提供もFSC要求事項には含まれます（FSC, 2018a）。

目標 5.ジェンダー平等を実現しよう

FSCではジェンダー平等を、「男女が自身の人権を実感する上で、また経済、社会、文化、政治的な発展へ貢献し、これらから便益を得るのに同じ条件であることを指す」と定義しています（FSC, 2018a）。この定義からもわかる通り、FSCはSDGsの目標5に様々な方法で貢献します。FSCの原則と基準が現在の第5版になる前から（第4版から）、FSCは国際労働機関（ILO）が定める中核的労働基準への順守を求めており、これには第111号条約「雇用及び職業についての差別待遇に関する条約」も含まれます。原則と基準第5版（FSC, 2015）からは、基準2.2に「組織は、雇用慣行、教育訓練の機会、契約の締結、協議過程、事業活動において男女平等を推進しなければならない」という要求事項が加わりました。

これらの要求事項についても、国内森林管理規格の策定の際に、国ごとの状況を反映しています。指標の例としては、男女ともに同じ雇用の機会を提供すること、女性が行うことが多い作業に関しても通常通りの教育訓練の機会を提供すること、同じ仕事をしている男女には同じ賃金を支払うこと、すべての従業員が安全に賃金を受け取ることができるような仕組み、少なくとも前後6週間の産前産後休暇を取得する権利を提供すること、復帰後に不利益を被ることがない育児休暇を取得する権利を提供すること、男女ともに会議や意思決定の場に参加できるようにすること、プライベートに配慮した方法でハラスメント、ジェンダー差別等の各種差別について相談できる窓口を周知することなどが含まれます（FSC, 2018a）。

FSCの仕組みでは、国内法令とFSC要求事項の間に矛盾がある場合は、国内規格策定グループがその矛盾を特定し、ギャップを埋めるために必要な措置を構築することを求めます。このような措置には、追加的教育訓練、賃金支払い方法の指定、柔軟な労働時間の導入、育児休暇制度の導入などが含まれます。このようにしてFSCはSDGsターゲット5.5（意思決定における男女平等）および5.A（経済的資源へのアクセス、オーナーシップ等）に貢献しています。

目標 6.安全な水とトイレを世界中に

FSCは、認証林内での生態系に対するアプローチを通じて、SDGsターゲット6.4（淡水の持続可能な採取）、ターゲット6.5（統合水資源管理）およびターゲット6.6（水に関連する生態系の保護・回復）に貢献しています。FSCの基準6.7「組織は、自然な河川や溪流、湖沼と川岸地帯、およびそれらの接続性を保護または復元しなければならない」は、特に関連性が高い基準です。この基準に基づき認証取得者は、事業活動による水質と水量への悪影響を回避し、悪影響があった場合は、これを低減及び改善しなければなりません。

また、原則2、5、7および10に含まれるいくつかの基準も、環境に配慮した方法での林業機械の使用や林道、作業道の開設、廃棄物の適切な処理やこれらのことに関する教育訓練を労働者に提供することを通じて、間接的に森林が涵養する水の量と質の維持につながっています。またFSCには水源涵養機能を含む生態系サービスの維持、向上を証明し、認証する仕組みもあります。これらを通じて目標6に貢献しています。

目標 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに

木材は重要なエネルギー源です。世界中で発展途上国を中心に26億人もの人が木材燃料に依存しています。サハラ以南のアフリカでは、8割を超える人が料理や水の煮沸のために木材燃料を使用しており、他のエネルギー源が限られていることや都市の人口増加によって、薪の需要が高騰しています。例えばサハラ以南のアフリカの都市では木炭の使用量が毎年3.3%増えているという推計があります（Onyango, 2015）。

このような伝統的な使用方法に加えて、産業における木材燃料の使用も増えています。これは木材がエネルギー生産活動において気候変動に与える影響が小さいエネルギー源であるためです。FSC認証は、化石燃料に置き換わる木材が、環境に悪影響を与えることなく、効率的に利用できることを保証します。FSCは、生態系サービスの重要な要素の一つに炭素固定と貯蔵があることを認識しており、これらがもたらす気候の安定とバイオマスエネルギー需要による木材利用という一見両立しない矛盾を抱えていることも認識しています。FSCの生態系サービス認証では、FSC認証林が固定する炭素と、バイオマスエネルギーのために伐採された木材の影響について情報発信することが可能です。

FSC認証は、持続可能な森林管理を推進するための信頼できるツールというだけでなく、地球温暖化ガスの発生を抑制しつつ、バイオマスエネルギーを持続的に生産するためのステップとしても活用できます。これは「2030年

までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる」というSDGsターゲット7.2に貢献します。

目標 8.働きがいも経済成長も

FSC制度は、環境と社会に配慮した木材利用によって、積極的に持続可能な経済成長に貢献をするというモデルです。FSCでは、SDGsターゲット8.4（資源効率）に関して、木材がコンクリート、鋼鉄、オイルといった持続可能ではない原材料を置き換える機会が、今後より増えていくと予想しています。一方、持続可能な管理がされている森林であっても無限に資源を生み出すわけではありません。従って生産過程における無駄を減らすこと、森林の資源を効率的に使うこと、廃棄物の再利用などが必要であり、これらはFSC制度に反映されています。例えばFSCはリサイクル資源のみで作られた製品に使用するためのFSCリサイクルラベルを用意しており、リサイクル資材を認証木材や管理原材料と同様に扱っています。

また、SDGsターゲット8.5（人間らしい仕事と同一賃金）、ターゲット8.7（強制労働の根絶と児童労働の禁止）、ターゲット8.8（労働者の権利と安全・安心な労働環境）もFSCはサポートしています。FSCの原則2は労働者の権利と労働環境に関するもので、ILOの中核的労働基準を満たすこと、ジェンダー平等を推進すること、労働者の安全衛生管理、生活賃金の保証、必要な教育訓練の提供、労働者の苦情や不満を解決するための仕組みの整備や個人資産への損害補償などを求めています。

目標 12. つくる責任つかう責任

FSCは、持続可能な生産と消費を推進するためのツールです。生産サイドにおいては、森林の木材生産機能を十分に発揮させつつも、資源が持続可能に維持されることを求めています。FSC表示を伴う取引やラベリングの仕組みを通じて、FSCは製造業者に持続可能な管理がされた森林に由来する原材料の調達機会を提供しています。消費者に向けては、持続可能な建築物、木材パネル、フローリング、家具、紙製品、パッケージなどが選択できる方法を提供しています。このようにFSCはSDGsターゲット12.2（天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用）、ターゲット12.6（企業による持続可能な取り組みの報告）およびターゲット12.8（持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識）に貢献しています。

ターゲット12.7の持続可能な公的調達政策に関して、FSCは世界中で日々調達方針に持続可能性を謳う公的組織が増えていることを歓迎しており、同時にこれらの組織の多くがFSC表示とFSCラベルを適合根拠として認めていることを認識しています。このような傾向は、ヨーロッパ、北アメリカ、日本などでよく見られます。現在FSCは、ラテンアメリカにおいても公的な調達方針において森林認証が採用されるよう働きかけています。

公的調達政策は、持続可能な森林管理を推進する上で非常に大きな役割を果たします。特に、公的な組織が森林管理者や製造業者に対して、認証材を優先し続けるという方針を明確に提示することが重要です。公的調達政策は、ターゲット12.1の持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組みのひとつの要素でもあります。

上述の通り、FSCは木質原材料の再利用についても認証を通じて評価しています。これはターゲット12.5の廃棄物発生抑制に貢献します。最後に多くの発展途上国にもFSCのナショナルオフィスや認証取得者がいることで、ターゲット12.A（途上国により持続可能な消費・生産形態の促進のための能力強化）にも貢献しています。

目標 13.気候変動に具体的な対策を

森林は気候制御において非常に大きな役割を果たしています。海洋と共に森林は二酸化炭素を大気から減らす機能を持っている重要な生態系です。炭素は木材の中だけでなく森林土壌にも貯蔵されます。世界中の森林に含まれる炭素は、大まかに大気中の炭素量と同じくらいであると言われています。2015年12月に採択されたパリ協定においても気候変動の緩和における森林の重要性が強調されており、締約国に森林の保全と炭素固定、貯蔵能力の強化を訴えています。

持続可能な森林管理を推進する森林管理認証、そのような森林からの木材を選択的に使用するCoC認証、リサイクル原材料の活用、そしてラベリングを通じた消費者への働きかけを通じて、FSCは木材製品の中に炭素を固定

することにも貢献しています。FSCは、大気中の二酸化炭素を固定する森林の機能を守るために厳しい要求事項を設けています。また炭素固定、貯蔵機能の維持、向上について情報発信するための生態系サービス認証というツールも利用可能です。

森林土壌中に貯蔵されている炭素についても、FSCは基準10.10において水資源や土壌の劣化を防ぐようなインフラ整備、輸送活動、育林施業を求めています。農業と大きく異なる点として、FSCは森林土壌の大きなかく乱を認めていません。基準10.9では、リスクの高い自然災害への対応や林業施業が自然災害を誘発させないための工夫が求められています。原則9に含まれる高い保護価値（HCV）4番は、脆弱な土壌や斜面の浸食の防止、そして集水域の保護を求めています。このようにしてFSCは、SDGsターゲット13.1の気候関連災害や自然災害に対する強靱性に貢献します。

目標 14. 海の豊かさを守ろう

陸での活動も海洋汚染とは無関係ではありません。特に化学合成農薬や肥料が使用された際には、海に与える影響も無視できません。

もちろん、このような汚染は農業によってもたらされることが多いですが、林業も多少なりとも影響を与えます。FSCはSDGsターゲット14.1のあらゆる種類の海洋汚染を防止について、河川・溪流といった水系の保護と復元、そして悪影響の回避・軽減を通じて貢献しています。

FSC認証林は、総合的水資源管理と水系生態系の保護を通じて効率的かつ持続可能な水利用に貢献しています。基準6.7「組織は、自然な河川や溪流、湖沼と川岸地帯、およびそれらの接続性を保護または復元しなければならない。また、事業活動による水質と水量への悪影響を回避し、悪影響があった場合は、これを低減及び改善しなければならない」は関連性の高い基準です。またFSCは基準10.6、10.7、10.8において、化学合成肥料、化学農薬、生物的防除の使用を厳しく制限しています。

目標 16. 平和と公正をすべての人に

FSCにとっても、法の執行は持続可能な森林管理の基礎となります。合法性については原則1を中心にカバーされており、特に森林の法的な所有権、使用権、伐採権や、社会環境的な要求事項の順守、地域社会の慣習的な権利などに関して規定されています。汚職や贈収賄についても、FSCは森林管理者に公開可能な贈収賄防止方針を持つことを求めています。また必要に応じて汚職に関与しないための措置も求めます。これらを通じてFSCは、SDGsターゲット16.3（法の支配の促進）とターゲット16.5（汚職や贈賄の大幅な減少）に貢献しています。

FSCのガバナンスの仕組みは、国際的そして国内レベル（国内森林管理規格の策定の際など）でも意思決定の際に幅広い利害関係者の関与を必要とします。この仕組みは、これまでもインクルーシブなガバナンスの仕組みを推進することに貢献しており、度々高い評価を得ています。例えばロシアでの研究では「大きな視点では、FSCがいくつかの林材業コミュニティに属する人々を、ただのロシア連邦の市民から森林ガバナンスのグローバルプロセスに関与する利害関係者に変貌させたとも言える。彼らには新たな権利とプロセスに参加する機会が提供された。」と結論付けられています（Henry and Tysiachiouk, 2013）。

他にも、「自主的な世界指針のひとつであるFSCが、世界のガバナンスを形作る上で次の3つの追加的な役割を果たしている。（1）多様な利害が絡む難しい問題の解決、（2）幅広い利害関係者の持つ知識と規範の仲介、（3）環境ガバナンスにおける学習ネットワークの構成。」と結論付けている研究もあります（Pattberg, 2005）。

自由意思による、事前の、十分な情報に基づく同意（FPIC）という考えに基づき、FSCは林業会社と地域住民が、よりインクルーシブかつ統制の取れた交渉の場を設けることを期待しています。また、このような交渉を通じて、お互いが最大限の恩恵を受けられる森林管理や、慣習的な森林の使用権の侵害などの問題に対する革新的な解決策が模索されることを望んでいます。コンゴ盆地での研究では、このような視点に関する事例が紹介されています（Krummenacher, 2013）。この事例からもFSCがSDGsターゲット16.6（説明責任と透明性）やターゲット16.7（対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定）に貢献していることが明らかです。

目標 17. パートナリーシップで目標を達成しよう

FSCは、合法的かつ経済的に継続可能な森林管理をサポートすることで、費用や税金の支払いを通じて国の財源に貢献をします。またFSCは、アメリカ、EUおよびオーストラリアが整備している違法伐採材の取引を禁止する法律をサポートすることで、持続可能な開発の障害を取り除くことに貢献しています。

また北半球の多くの消費者は熱帯木材の生産に紐づく環境的、そして社会的な悪影響を気にしていることから、FSCは、北半球のマーケットにおける熱帯木材のイメージ向上にも努めています。

このことによって、FSCはSDGsターゲット17.1（国内資源の動員）と17.11（途上国からの輸出増）に貢献しています。

最後に、多様なステークホルダーにより構成されるFSCの活動方法は、ターゲット17.17（公的、官民、市民社会のパートナーシップ）にも貢献しています（Karmann et al., 2016）。特に複数の小規模森林所有者が一緒に取得するグループ認証では、管理方法の共通化や、共同で実施する教育訓練、場合によっては木材加工企業によるサポートなどの協力関係が見られます。

まとめ

上記の通り、SDGsの14の目標に渡る40のターゲットに貢献するFSCは、SDGsの達成にとって非常に有効なツールであると言えます。持続可能な天然資源の管理と社会環境的な目標の達成に貢献し、法の支配や慣習的な権利を尊重し、様々な関係者によるインクルーシブなガバナンスの仕組みを持つFSCは、SDGsとの親和性が非常に高いと言えます。またFSCは、何か行動を起こしたいと考えている人にとって身近なパートナーとして存在しています。

参照文書

Cerutti, P.O., Lescuyer, G., Tsanga, R., Kassa, S.N., Mapangou, P.R., Mendoula, E.E., Missamba-Lola, A.P., Nasi, R., Eckebil, P.P.T., and Yembe, R.Y. (2014) *Social Impacts of the Forest Stewardship Council Certification: An Assessment in the Congo Basin*. Occasional Paper 103. Center for International Forestry Research, Bogor. (Also available at http://www.cifor.org/publications/pdf_files/OccPapers/OP-103.pdf, accessed 1 August 2016).

FSC (2015) *FSC Principles and Criteria for Forest Stewardship*. FSC-STD-01-001 V5-2 EN. Forest Stewardship Council, Bonn. (Also available at <https://ic.fsc.org/en/document-center/id/59>).

FSC (2018a) *International Generic Indicators*. FSC-STD-60-004 V2-0 EN. Forest Stewardship Council, Bonn. (Also available at <https://ic.fsc.org/en/document-center/id/335>).

FSC (2018b) *FSC Ecosystem Services Procedure: Impact Demonstration and Market Tools*. FSC-PRO-30-006 V1-0 EN. Forest Stewardship Council, Bonn. (Also available at <https://ic.fsc.org/en/document-center/id/328>).

FSC (2019a) *FSC Pesticides Policy*. FSC-POL-30-001 V3-0. Forest Stewardship Council, Bonn. (Also available at <https://ic.fsc.org/en/document-center/id/374>, accessed 1 July 2019).

FSC (2019b) *FSC and Trade of Endangered Species*. Forest Stewardship Council, Bonn. (Also available at <https://ic.fsc.org/file-download.fsc-and-trade-of-endangered-species.a-8718.pdf>, accessed 1 July 2019).

Henry, L.A., and Tysianchniuk, M. (2013) *Managed Citizenship: Global Forest Governance and Democracy in Russian Communities*. An NCEEER Working Paper. National Council for Eurasian and East European Research, Seattle, WA. (Also available at https://www.ucis.pitt.edu/nceeer/2013_827-06_Henry.pdf, accessed 9 July 2019).

Hodgdon, B.D., Hughwell, D., Hugo Ramos, V., and McNab, R.B. (2015) *Deforestation Trends in the Maya Biosphere Reserve, Guatemala*. Rainforest Alliance, New York. (Also available at <https://www.rainforest-alliance.org/sites/default/files/2016-08/MBR-Deforestation-Trends.pdf>, accessed 26 June 2019).

Karmann, M., Mietinnen, P., and Hontelez, J. (2016) Forest Stewardship Council indicators: development by multi-stakeholder process assures consistency and diversity. In: *Policy Matters* 21, pp. 125–138. IUCN, Gland. (Also available at https://www.iucn.org/sites/dev/files/policy_matters_21_chapter_8_forest_stewardship_council_

indicators_development_by_multi-stakeholder_process_assures_consistency_and_diversity.pdf, accessed 1 July 2019).

Krummenacher, H. (2013) *Final Report: Assisting Danzer and Siforco in Meeting Their Obligations Towards the Communities of Bumba*. Swiss Peace Foundation (swisspeace), Bern. (Also available at <https://ic.fsc.org/preview.swisspeace-final-report-bumba-communities-eng.a-3554.pdf>, accessed 1 August 2016).

Onyango, S. (2015) Trees for wood energy and land restoration. World Agroforestry Center, Nairobi. <http://blog.worldagroforestry.org/index.php/2015/12/11/trees-for-wood-energy-and-land-restoration/> (accessed 12 August 2016).

Pattberg, P. (2005) What role for private rule-making in global environmental governance? Analysing the Forest Stewardship Council (FSC). *International Environmental Agreements: Politics, Law and Economics* 5(2): 175–189. doi:10.1007/s10784-005-0951-y.

UN (2015) Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development. United Nations, New York. <https://sustainabledevelopment.un.org/post2015/transformingourworld> (accessed 1 August 2016).

UNEP (2016) *Delivering on the Environmental Dimension of the 2030 Agenda for Sustainable Development*. UNEP/EA.2/INF/4. United Nations Environment Assembly of the United Nations Environment Programme, Nairobi. (Also available at <https://undocs.org/UNEP/EA.2/INF/4>, accessed 26 June 2019).

United Nations Secretary-General (2019) Special edition: Progress towards Sustainable Development Goals. Report of the Secretary-General. Advance Unedited Version. United Nations Economic and Social Council, New York. https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/22700E_2019_XXXX_Report_of_the_SG_on_the_progress_towards_the_SDGs_Special_Edition.pdf (accessed 1 July 2019).

Vira, B., Wildburger, C., and Mansourian, S. (eds) (2015) *Forests and Food: Addressing Hunger and Nutrition Across Sustainable Landscapes*. OpenBook Publishers, Cambridge, UK. (Also available at <http://www.openbookpublishers.com/product/399/forests-and-food--addressing-hunger-and-nutrition-across-sustainable-landscapes>, accessed 1 August 2016).